

主な内容	
12月定例会のあらまし	1
一般質問議員と項目	1
一般質問と答弁	2
主な質疑	3
議会の動き	3
研修報告	3~4



那須烏山市 Nasukarasuyama City

議会だより

2011 No.20

発行

那須烏山市議会

編集

議会広報委員会

事務局

☎0287-88-7114



平成22年度成人式 (1月9日 風月CC)

12月定例会が11月30日(火)に招集され、12月9日(木)までの10日間の会期で行われました。提出された議案はすべて原案のとおり可決されました。可決された主な議案は次のとおりです。

※なお、議決された議案の内容など、くわしくは「広報那須烏山第64号」(1月7日発行)をご覧ください。

- 1 市追加経済対策の充実について
- 2 本市中山間地域の対策について
- 3 **本市の温暖化対策について**
- 4 県とちぎ未来開拓プログラムについて
- 5 市内国道294号及び市東部の県道の整備について
- 6 市民憲章及び市歌の制定を



- 1 **市内巡回バス運行について**
- 2 図書館の指定管理者制度導入の進捗状況について
- 3 ほ場整備実施地区の農道整備について
- 4 米粉の活用について



- 1 農業、農村の振興対策について
- 2 文化、スポーツの振興について
- 3 **公共施設の利活用について**
- 4 国、県、市道の整備について



- 1 財政運営について
- 2 公共工事発注と雇用対策について
- 3 **地域の問題について**



- 1 **本庁舎及び体育館の建設整備計画について**
- 2 未収金の徴収対策について
- 3 職員の法令違反等に対する処分基準について



- 1 地域ブランドについて
- 2 宮原キャンプ場、境橋、落石周辺の観光地に向けた整備について
- 3 **職業訓練校跡地を住宅地にできないものか**



※赤字にしている項目は、本紙2ページに質問と答弁の内容が掲載されていますので、そちらもご覧ください。



- 1 **道の駅構想の進捗状況と戦略について**
- 2 私立保育園・幼稚園の現況とその支援策について
- 3 今後の課題である本庁舎・文化会館等、公共施設に対する取り組みについて
- 4 結婚相談に関する現状とその対策について



- 1 ホームページについて
- 2 **広報について**
- 3 上下水道施設の耐震化について
- 4 消防団の施設の改修・改善について
- 5 林業の活性化について



- ### 一般質問議員と項目
- ・平成22年度一般会計補正予算
 - ・平成22年度国民健康保険特別会計補正予算
 - ・平成22年度熊田診療所特別会計補正予算
 - ・平成22年度後期高齢者医療特別会計補正予算
 - ・平成22年度介護保険特別会計補正予算
 - ・平成22年度下水道事業特別会計補正予算
 - ・平成22年度水道事業会計補正予算
 - ・表彰条例の制定
 - ・職員の分限の手續及び効果に関する条例の一部改正
 - ・職員給与条例等の一部改正
 - ・市立学校設置条例の一部改正
 - ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正
 - ・南那須地区広域行政事務組合規約の変更
 - ・訴えの提起

平成22年12月定例会
一般質問から
 ※質問・答弁の内容は要約してあります。
 詳しくは議会事務局(TEL0287-88-7114)までおたずねください。

公共施設跡地の 活用について

渡辺 健寿議員

(問) 公共施設の跡地について、暫定利用しつつ活用計画をつくる施設を除き、売却又は貸し付けを前提とした跡地については、平成21年度に、不動産鑑定評価を行なった。1年遅れての実施となった提案型公募の内容と結果について伺う。
 ◎市長 売却又は貸し付けを前提とした3施設について、7月に提案型公募を行った。書類の審査、面談によるヒアリングなど慎重な審査の結果、次の法人を活用予定業者として決定した。旧境小学校はNPO法人と旧田保育園は社会福祉法人みつわ会みつわ工房である。いづれも障がい者自立支援法に基づく通所作業所としての計画である。
 土地、建物を有償貸付の予定で契約準備を進めている。なお東小学校跡については、一次の応募がなかった

たので12月に再募集を実施する。

市内巡回バス 運行について

佐藤雄次郎議員

(問) 年々高齢者による交通事故が増加傾向にあり、また、高齢者は日常の買い物や通院に苦労している。このような社会環境に 대응するために、電話で予約し、自宅まで迎えにきてくれる高齢者等に便利な交通手段であるデマンドバス(タクシー)の運行について伺う。
 ◎市長 市では現在、公共交通再編整備計画において高齢者福祉の充実を大きなテーマとして捉え、高齢者に利用しやすいように既存のバス事業の見直しや、運転免許返納者への支援、デマンド交通システムの適応等、多面的な検討を行っている。高齢者がより利用しやすい仕組みを念頭に、年度内に交通整備計画の策定を予定している。

職業訓練校の 跡地利用について

高德正治議員

(問) 現在、空地になっていく訓練校の跡地を一般住宅あるいは市営住宅などにも利用できないか伺う。
 ◎市長 跡地は、平成22年3月まで、県と市が使用貸借契約を結び、運動公園として利用していた。市は利用を確定しないまま県に返還することになり現在に至っている。遊休地の有効利用と安住促進等の観点から、住宅地化は一定の効果が見込めるが、県との協議により県の意向を反映させる必要があること、市民間住宅分譲地が完成されないなど懸念材料がある。市は、公営住宅等長寿寿命化計画を策定するために、現在公営住宅の老朽化の調査を実施している。今後は、これらの調査結果を踏ま

本市の地球温暖化 対策計画を

平塚英教議員

(問) 国及び県の温暖化実行計画の策定実施に伴う本市の実行ある市民ぐるみの温暖化対策の実行計画を策定実施を進められたい。
 ◎市長 国の地球温暖化対策の推進に関する法律に基づいて県が平成27年度までの5年間、地球温暖化対策実行計画の策定作業を進めており、年度内には公表さ

れる予定である。本市としても県計画の検証の上、本市独自の地球温暖化対策実行計画の策定を進めたい。
 (問) 県道那須烏山・御前山線は本市烏山大橋から上境、横枕、大木須を経て、茨城県に通ずる重要街道である。改良については上境一の沢部分で止まっている。早期改修を図る対策強化を。
 ◎市長 主要地方道烏山御前山線は県に本市の重要整備箇所として早期の事業化を要望しているが今後とも本路線の危険度と重要性を訴え、強く要望活動を展開したい。



現在の職業訓練学校跡地

本庁舎と体育館の 整備計画は

中山五男議員

(問) 現在、空地になっていく訓練校の跡地を一般住宅あるいは市営住宅などにも利用できないか伺う。
 ◎市長 跡地は、平成22年3月まで、県と市が使用貸借契約を結び、運動公園として利用していた。市は利用を確定しないまま県に返還することになり現在に至っている。遊休地の有効利用と安住促進等の観点から、住宅地化は一定の効果が見込めるが、県との協議により県の意向を反映させる必要があること、市民間住宅分譲地が完成されないなど懸念材料がある。市は、公営住宅等長寿寿命化計画を策定するために、現在公営住宅の老朽化の調査を実施している。今後は、これらの調査結果を踏ま

え、仮に公営住宅を新設する計画ができた場合は、跡地もその一候補として考慮する可能性はある。その際は、PFI方式も考えたい。

小貝川源流池浄化と 周辺整備について

佐藤昇市議員

(問) 小貝川源流池は行政管理で行うべきと認識している。地元では、市に対して改善請願書を区長名で提出。今後の池浄化と周辺整備を強く望んでいる。市長の考えを伺う。
 ◎市長 県や市の再三の指導にもかかわらず、場内に野積み状態が続いている、地元と協力して県に引き続き協力を指導するよう要請している。市では、周辺環境への悪影響を軽減するため、低コストで水質改善効果の高い曝気ポンプを本年度に設置する。設置後は、地元自治会と連携しながら適切な管理を進め、小貝川源流の池として市民の憩いの場となる環境を目指している。

(問) 行政改革を推進するには、現在の分庁方式から本庁方式にかえる必要がある。市長は2期目を迎えているが、本庁舎整備計画構想はあるのか。また、市長は2期目の選挙公約の中に「文化スポーツ拠点の整備」を掲げ当選を果した。旧南那須町時代、岩子地内の勤労者体育館は、河川改修工事により解体され、市民は学校体育館を利用している。当時、町は県支出の補償金3億4千万円余を積み立てていたが、体育館建設計画はあるのか伺う。
 ◎市長 庁舎は平成24年度

を目標に本庁方式に移行する考えであったが、財政難であることから、当面は市民生活関連事業等を優先させ、庁舎については今後の経済動向を見極めながら対処したい。体育館建設計画については、現在策定中である都市再生ビジョンの中で具体的に示したい。

◎市長 写真等も幅広く活用し魅力ある広報紙になるよう努めていく。
 (問) 私の調査によれば、子供たちの写真が大変多く載っているが私立の幼稚園・保育園の子供たちの写真は掲載されていない。何年も私立の子供たちが載っていないので問題がくすぶっている。公立でも私立でも市民の子供たちには変わりはないと思うが、市長はどのように考えるか。
 ◎市長 ご指摘のことについては大変驚いている。意見を踏まえて公平平等に扱うように指示していきたい。

◎市長 紙面には限りがあるので、うまく調整をして平等に写真が載るように担当に指示を願う。



広報 那須烏山

◎市長 議員のご指摘は私も理解できる。双方に相乗効果がある道の駅にした。また事業主体は直売所連絡協議会が理想と考えている。

(問) ミニ道の駅との話もあるが、市長はどの程度規模を考えているのか。
 ◎市長 当初はミニ道の駅と明確にしたが、その構想はふさわしくないという内部の意見もある。本市にふさわしい身の丈にあった道の駅を想定している。
 (問) 場所はどこを想定しているのか、また交通量調査は行ったのか。
 ◎農政課長 まだ場所については未定だ。交通量調査も今後の検討課題だ。
 (問) 道の駅を作ることによって市内商店街の空洞化が更に進むと懸念される。また市内の農産物直売所は地域コミュニティの場としても重要な拠点であると思う。それらに及ぼす影響も考慮すべきと思うが如何か。
 ◎市長 議員のご指摘は私も理解できる。双方に相乗効果がある道の駅にした。また事業主体は直売所連絡協議会が理想と考えている。

広報について

波井 由放議員

(問) 広報那須烏山は、必要ないとの声があり市民の声を聞いて改革を進めなければならぬと考えるが市長の考えを伺う。

道の駅構想とその戦略について

久保居光一郎議員

(問) 今年度から農政課に道の駅の担当職員を置きプロジェクトチームを立ち上



主な質疑

12月定例会に上程された議案の審議の中で、議員の質疑の中から主なものを要約して掲載しています。

那須烏山市表彰条例の制定について

議員 職責に対して明確に記録とか数字や文化スポーツ等の表彰を受けたものの明確な判断基準があるものは良いが、まちづくり貢献賞に関わる表彰等については中立・公平・透明性を確立される必要があると思うが如何か。

総務課長 地道な活動等は何をもって基準とするかは難しいが、審査会で公平な審査が行われるよう努めたい。

議員 団体の長は3期とか、ボランティアは10年との期間が設けてあるが、まだ市になって5年である。合併以前の活動にまで遡って選考の対象になるか。

総務課長 旧町からの活躍も通算し、合併後、現在までの中で10年なり12年の期間があれば選考の対象としたい。

議員 この条例に「市民栄誉賞」が規定されているが、本市には「名誉市民」がある。どのように区分するのか。
総務課長 「名誉市民」については、別の条例で定められており、議会の承認が必要である。また、その区分については、「名誉市民」は、永年にわたって地域貢献や市政発展に携わった方、「市民栄誉賞」は、単発的に世界的な活躍をされた方を考えている。

那須烏山市職員の手続及び効果に関する条例の一部改正について

議員 職員の身分や人権を守ることは大事だ。しかしこの条例は禁固刑以上で過失または情状酌量の余地があるものについて失職を免れるということが含まれている。市民感情から見て禁固刑は相当に重い罪だ。この条例があることにより、職を失わずに済むというような金科玉条に使われてしまふ恐れはないか。また刑に処せられるような職員を出さないことが重要だ。

副市長 禁固刑で執行猶予がついたものについて、また情状酌量について取消しの判例もあるという背景もご理解願いたい。この条例を活用して職員を庇うことはしない。また禁固刑をうける職員を出さないように努めたい。

平成22年度那須烏山市一般会計補正予算

議員 道の駅整備事業費として委託料100万円が計上されている。庁内にプロジェクトチームを作り調査研究をしているようだが、その経過について伺う。

農政課長 県内17の道の駅等の視察研修を行い、そのとりまとめが終わったところである。

議員 労働費の中の雇用対策事業費1200万円は、緊急雇用対策等の公募提案型で、40歳未満を対象とするとのことであるが、詳しく伺いたい。

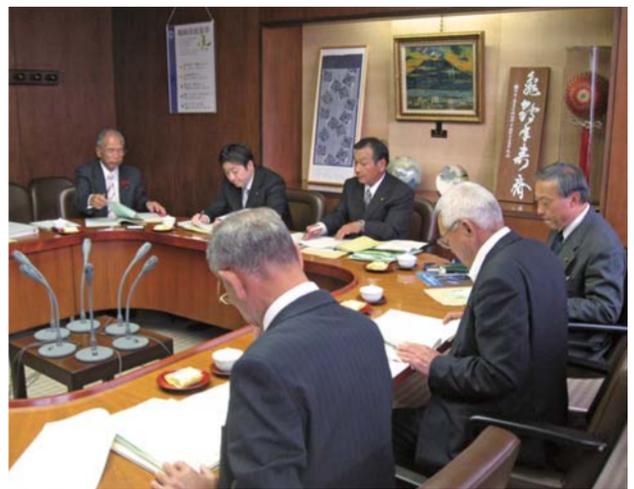
商工観光課長 40歳未満の若年層を主に雇用の創出を図る方針が9月に閣議決定されている。本市も既に9月補正予算で応募提案型の緊急雇用対策を実施し、4事業者に委託し15名を雇用している。

議員 本市における合併特例債の残金はあといくらあるのか。
総合政策課長 本市の合併特例債事業の発行可能額は106億6850万円。今年度末で47億6140万円を使うことになるので残額は59億710万円になる。



研修報告

総務企画常任委員会



鶴岡市役所での研修の様子

できました。旧庄内浜加茂水族館時代の職員を雇用しているため、施設規模や事業規模に見合った事務執行と公社施設管理のノウハウを有しており、特に独自に研究開発したクラゲの繁殖、飼育、展示に関する技術は世界トップクラスの水産を誇ります。

総務企画常任委員会では平成22年11月4日～5日に山形県鶴岡市立加茂水族館の設立から指定管理者導入に至る経緯と今後の整備計画等について視察研究してきました。その概要を報告いたします。

加茂水族館は、クラゲの展示で世界一を誇り、近年テレビ等でも紹介され、人気のある水族館です。昭和39年に現在の水族館を新設し、その後、昭和42年に(株)庄内観光公社に売却、平成9年にクラゲ展示を始め、平成14年に市が買い戻し市営となり、平成18年に鶴岡市開発公社が指定管理者となり、現在に至っています。

今後、平成26年に新水族館を建設予定です。

財団法人鶴岡市開発公社は、平成14年4月以降、鶴岡市立となった加茂水族館の管理業務を一手に請負ってきました。

指定管理者制度は、地方自治法の一部改正により平成15年施行されました。本市でも平成18年より導入されており、指定管理者制度の主旨を再確認し、今後調査研究してまいります。

総務企画常任委員会
委員長 佐藤 昇市

議会の動き

平成22年10月30日 議会だより第19号発行

11月

4日 総務企画常任委員会視察研修
～5日 山形県鶴岡市
文教福祉常任委員会視察研修
～5日 宮城県柴田町

9日

経済建設常任委員会視察研修
～10日 福島県矢吹町

24日

議会運営委員会 議員全員協議会

30日

第8回定例会
～12月9日。
本会議日程については、本誌4ページ表参照)

12月

7日 各常任委員会
行財政改革特別委員会

9日

議会広報委員会

平成23年1月

13日 議会広報委員会
17日 議会広報委員会

研修報告

文教福祉常任委員会

文教福祉常任委員会では11月4～5日に障がい者の福祉施設を2カ所視察研修いたしました。その内容についてご報告します。

初日は那須塩原市関谷にある通所授産施設、地域活動支援センター「那須塩原市ふれあいの森」において同センターの二ノ宮施設長より説明を受けました。施設は、市内に3カ所ある施設の中の1つで平成14年10月に開所されました。市内に住所を有する15才以上の比較的重度の障がい者で通所可能な方を対象としています。床面積は397㎡、定員19名で市社会福祉協議会が運営しております。

現地は過去に内陸大地震のあった関谷活断層に位置するため、施設はより強固に造られ、併せて定期的に避難訓練をされているとのこと。事業内容として創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進、その他援護事業等です。観光地を近くに控えているので観光パンフレットの袋詰め作業・手芸木工品作成・野菜の栽培などの就労支援及び就労移行支援事業行なっていました。

翌日は宮城県柴田町にある就労移行、就労継続B施設「くりえいと柴田」を視察しました。社会福祉法人「はらから福祉会」が運営する7市町にある8施設の中の1つであります。武田



「くりえいと柴田」で武田理事長の説明を受ける委員

理事長より運営の考え方についての説明を受けました。平成18年7月に開所し、レトルト食品、米粉パン、豆腐等の大豆加工品を主に造っていました。働くことに意欲的に取りくむこと、地域社会の人たちとのつながりを深めること、輝いた生活をとの方針の基、具体的な所得目標を掲げて運営されていきました。尚、同法人は8施設で通所者260人、他にグループホーム9施設、定員44人、も併せて運営していました。今回の研修では障がいの有無、程度の軽重に関係なく、生活のため働くことは人間にとって基本的なこと、そして自立と社会参加の重要性を再認識いたしました。

文教福祉常任委員会
委員長 渡辺 健寿

研修報告

経済建設常任委員会

経済建設常任委員会では、11月9日から10日まで福島県矢吹町の「下水道の普及啓発の取り組み」と磐梯町の「道の駅ばんだい」を視察研修してまいりました。その概要を報告いたします。

矢吹町の下水道の普及啓発の取り組みについては、担当者から下水道事業は住民の方に理解されにくい部分が多く、思うような効果が上がらなかつたと説明を受けました。そのため町民に対する普及啓発活動をどうしたら良いかとして生まれたのが、キャラクターの「下水戦隊スレンジャー」を使ったPR活動でした。このアイデアは職員の半ば遊びの心と経費をなるべくおさえる、他の自治体ではやっていない独自の方法で行なうことから生まれました。この事業は、広報誌



矢吹町役場での研修の様子

等で事業をPRするのではなく、職員が幼稚園や保育園に出向いて紙芝居をとおして啓発活動を行うものであります。内容は、ヒーローが子供たちの応援をもらって水を汚す悪者をやっつけるストーリーになっています。毎年、幼稚園や保育園で1300人くらいに達しています。町にとっては「最小の経費で最大の効果」が得られたとの報告を受けました。

また、道の駅「ばんだい」は、第三セクターで運営され、町が100%出資をしています。町長がその代表者になっています。道の駅は、検討委員会の設置から開所まで3年間という短い期間でできています。施設は、物産館設置と活性化施設からなり、野菜等販売、お土産販売、食堂の運営などを行なっています。また、磐梯山の眺望を活かした県道沿線にあり、観光ルートにもなっています。町長からは、運営に関する課題や取り組みについて説明を受けました。町長は、民間の出身で経営に対する熱意と意欲を感じました。

経済建設常任委員会
委員長 高德 正治

3月定例議会は、3月2日(水)開会予定です。

※正式な日程は、2月22日に開催される議会運営委員会で決定されます。

12月議会の本会議日程と傍聴者数

月 日	内 容	傍聴者数
11月30日(火)	開会・上程・採決・付託	7人
12月2日(木)	一般質問	14人
12月3日(金)	一般質問	14人
12月6日(月)	一般質問	28人
12月9日(木)	報告・採決・閉会	2人
	計	65人

議会を傍聴してみませんか



議会を傍聴することは、市政を知る最も良い方法です。くわしくは、議会事務局までお問い合わせください。

決議

那須烏山市議会では、12月定例会において、全会一致により次の決議をしました。

環太平洋戦略的経済連携協定(TTP)交渉への参加に反対する決議

(内容)
食料・農業・農村基本計画で食料自給率50%を目指している中、関税撤廃の例外を認めないTPP交渉への参加は、日本の農業を壊滅に追い込むことは確実である。TPPに参加すれば、国内の農業生産額は年間4兆1,000億円減り、食料自給率も14%に落ち込むと農林水産省は試算している。

安全・安心な国産食料の確保のためにも、生産基盤、地域経済が崩壊する恐れがあるTPPへの参加には断固反対する。

あしがき

平成22年の世相を表す漢字は「暑」にきまつた。文字どおりの猛暑の夏であったが、今年も高校野球観戦に球場へ足を運んだ。熱中症防止のために氷水の水筒とペットボトル二本、握り飯と塩飴を携えた。NHKのテレビで放映された「坂の上の雲」の中で俳人正岡子規の病床における壮絶な生きざまが描かれていたが、彼こそが当時ベースボールを野球とした日本語に関わったといわれている。

低迷の続く栃木県の高校野球ではあるが、今春の選抜高校野球大会に21世紀枠候補に大田原高校が選出され、1月28日の決定が待たれる。県北勢では黒磯高校の夏の甲子園出場以来の快挙となるか胸が高まる。

いま国全体に閉塞感が漂っている中、卯年を迎える、せめて「一株を守りて兔を待つ」といふことにならぬよう祈りたい。

○球児らの憧れの地よ
甲子の園は忘れまじ
あの蔦の葉を
(佐藤雄次郎 記)